

鳩間島・黒島・新城島における石碑・記念碑等の調査報告

岸 本 弘 人・石 垣 忍

The investigation report of the monument in Hatomajima Island/Kuroshima Island/Aragusukushima Island

Hiroto KISHIMOTO, Shinobu ISHIGAKI

鳩間島・新城島・黒島総合調査報告書、沖縄県立博物館・美術館 別刷

2016年3月11日

Reprinted from Survey Reports on Natural History, History and Culture of
Hatomajima, Aragusukujima, Kuroshima Islands, Okinawa Prefectural Museum and Art Museum

March, 2016

鳩間島・黒島・新城島における石碑・記念碑等の調査報告

岸本 弘人^{*1}・石垣 忍^{*2}

The investigation report of the monument in Hatomajima Island/Kuroshima Island/Aragusukushima Island

Hiroto KISHIMOTO^{*1}, Shinobu ISHIGAKI^{*2}

はじめに

本稿は、沖縄県立博物館・美術館（博物館班）による総合調査事業に基づいて2012（平成24）年度から2015（平成27）年度の4年間にわたり実施した「鳩間島・黒島・新城島総合調査」の歴史分野の調査報告である。

当館が実施する沖縄周辺の島々に関する総合調査は1980（昭和55）年から行われており、八重山諸島についてはこれまでに波照間島、西表島、小浜島、与那国島、竹富島の調査が実施されてきた。

著者は2009（平成21）年に赴任後、竹富島の石碑・記念碑等の現状調査を行ったが、島の大きさの割に石碑・記念碑の数が多く、その中でも銅像を伴った故人の顕彰碑が多いといった特徴が見られた。今回は鳩間・黒島・新城の3島で同様の調査を実施し、竹富島との比較をすることとした。

調査の目的

本調査は鳩間・黒島・新城の3島に現存する全ての石碑・記念碑等の現況を把握することを目的とした。御嶽の鳥居や灯籠については石碑・記念碑とは言えないものの、奉納年や奉納者が刻まれているものが存在することから、前回の竹富島調査より調査対象としている。ただし、新城島（上地島）につい

ては聖域としての扱いが厳格で立ち入りが厳禁されているため、調査の対象とはしていないことをあらかじめ断っておく。

調査項目は時間的制約等もあって設置場所の把握、法量測定、碑文の確認および書き起こし等に限った。石材を利用した記念碑が建立されている場合、石の材質は詳細な分析に基づくものではなく、あくまでも調査員が参考程度に判断したものなので、今後あらためて検討する必要がある。個々の石碑の確認については万全を期したつもりであるが、万が一調査洩れがある場合の責任は一切当博物館にある。なお、文献調査や聞き取りによる建立の歴史的経緯等の記述については機会を改めることとしたい。

本調査においては、次の方々（五十音順）にお世話になった。記して感謝申し上げます。

竹富町教育委員会総務課町史編集係主事

飯田泰彦

鳩間中学校教諭 池田 亘

同校3年生 田澤 優 山田創太

パナリ島観光 西泊宏信

竹富町史編集委員 玻座間武

新城公民館長 本底重男

調査の方法

調査は現地踏査により、1件ずつ調査シートに記

※1 〒904-2213 沖縄県うるま市市場1827 沖縄県立前原高等学校

*1 Okinawa Prefectural Maehara high school, 1827, Taba, Uruma city, Okinawa, 904-2213, Japan.

※2 〒900-0006 沖縄県おもろまち3-1-1 沖縄県立博物館・美術館

*2 Okinawa Prefectural Museum and Art Museum, 3-1-1, Omoromachi, Naha, Okinawa, 900-0006, Japan.

入していく方法をとった。調査日は以下の通りである。

2013（平成25）年3月4日～6日 黒島
岸本弘人
2013（平成25）年6月25日 新城島（上地島）
2013（平成25）年6月26日 新城島（下地島）
岸本弘人
2015（平成27）年3月18日～20日 鳩間島
石垣 忍

石碑・記念碑等の分布状況

〔新城島〕

新城島は通称パナリ島とも呼ばれ、北東の上地島と南西の下地島は僅か数百mの海で隔てられているだけである。

現在、上地島に住民登録している人は数名に過ぎないが、豊年祭などの行事の時に島に戻って利用するための別荘的な屋敷が10数件ある。筆者が調査を行った6月下旬は祭りが終わったばかりで屋敷がきれいに清掃されているのが印象的であった。上地島には国の史跡に指定されている「タカニク」と竹富町史跡「クイヌパナ」にそれぞれ標柱と説明板があり、他には小学校跡地にコンクリート製の鉄棒があるのみであった。

下地島は現在、島のほとんどが牧場となっており、管理人が一人住んでいるだけである。下地島の栈橋からしばらく歩いた右手奥に大原小中学校下地分校跡があり、その先数十メートルの所に拜所と顕彰碑が集中している場所がある。その他には島の中央部と北西、南西部に御嶽が分布している。

下地島はかつて新城島の中心地で、人口も一定程度いたこともあり、上地島よりも石碑・記念碑の数が多い。

〔黒島〕

石碑・記念碑等は東筋集落の黒島伝統芸能館周辺と宮里集落内、および黒島小中学校の敷地内の三カ所に集中している。石碑・記念碑の数そのものは竹富島と比べて少なく、故人を顕彰した銅像は一つもない。御嶽は12カ所あり、13カ所の竹富島とそれほど変わらない。

建立年代は南風保多御嶽内の灯籠が戦前（昭和17年）に造られているのが確認できたが、その他はほとんどが1973（昭和48）年以後に造られた比較的新しいものが多い。御嶽の鳥居も含め建立年が刻まれていないもののがかなりの数に上る。

〔鳩間島〕

鳩間島は、西表島の北方約6kmの海上に位置し、周囲3.86km、面積0.96km²、人口48名と小さな島である。島の南に西表島、東南に小浜島、東側には石垣島を望むことができる。中央部が島で最も高い部分で、標高34メートルである。そこには、物見台が復元され、石が円錐台に3メートルほど積み上げられており、この小高い丘は一般に「中森」と呼ばれ、「鳩間中森」の標柱も設置されている。八重山を代表する民謡「鳩間節」はこの「中森」からの眺めを歌ったものである。この中森の東部と西部だけ大木が生い茂り、小さいながらも森としての形を成しており島の象徴的な存在である。竹富町史跡の標柱と説明板や御嶽の鳥居などが主に島の中央部から南側に分布している。

各石碑・記念碑等の記録

調査結果を元に若干の考察を行ってみたい。

（1）建立年代について

黒島、新城島、鳩間島の石碑・記念碑等（鳥居・灯籠含む）の建立年代を見ると全68件中、昭和戦前期（1926～1945年）3件（4.4%）、昭和アメリカ統治期（1946～1971年）6件（8.8%）、本土復帰以降（1972年～）42件（61.8%）、不明17件（25%）となっており、戦後に建立されたものが9割を占める。前回調査した竹富島においては王府時代に建立されたと考えられる小城盛（火番盛・遠見台）の方位石、また近代の大正時代に建立された「啓蒙台」や「敬老席」などが最も古いものであったのに対し、この3つの島の中では新城下地島の小学校跡西にある鳥居が最も古く1936（昭和11）年で続いて1942（昭和17）年に南風保多御嶽の内の灯籠がなっている。さらに、この3島で1973（昭和48）年に11件の石碑（主に記念碑）が集中して建立されているのが、ちょうど復帰の翌年にあたる

年で竹富町の文化財として、指定したために集中的にしたと思われる。しかし、竹富島は全体数からするとそれほど多くない。

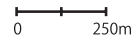
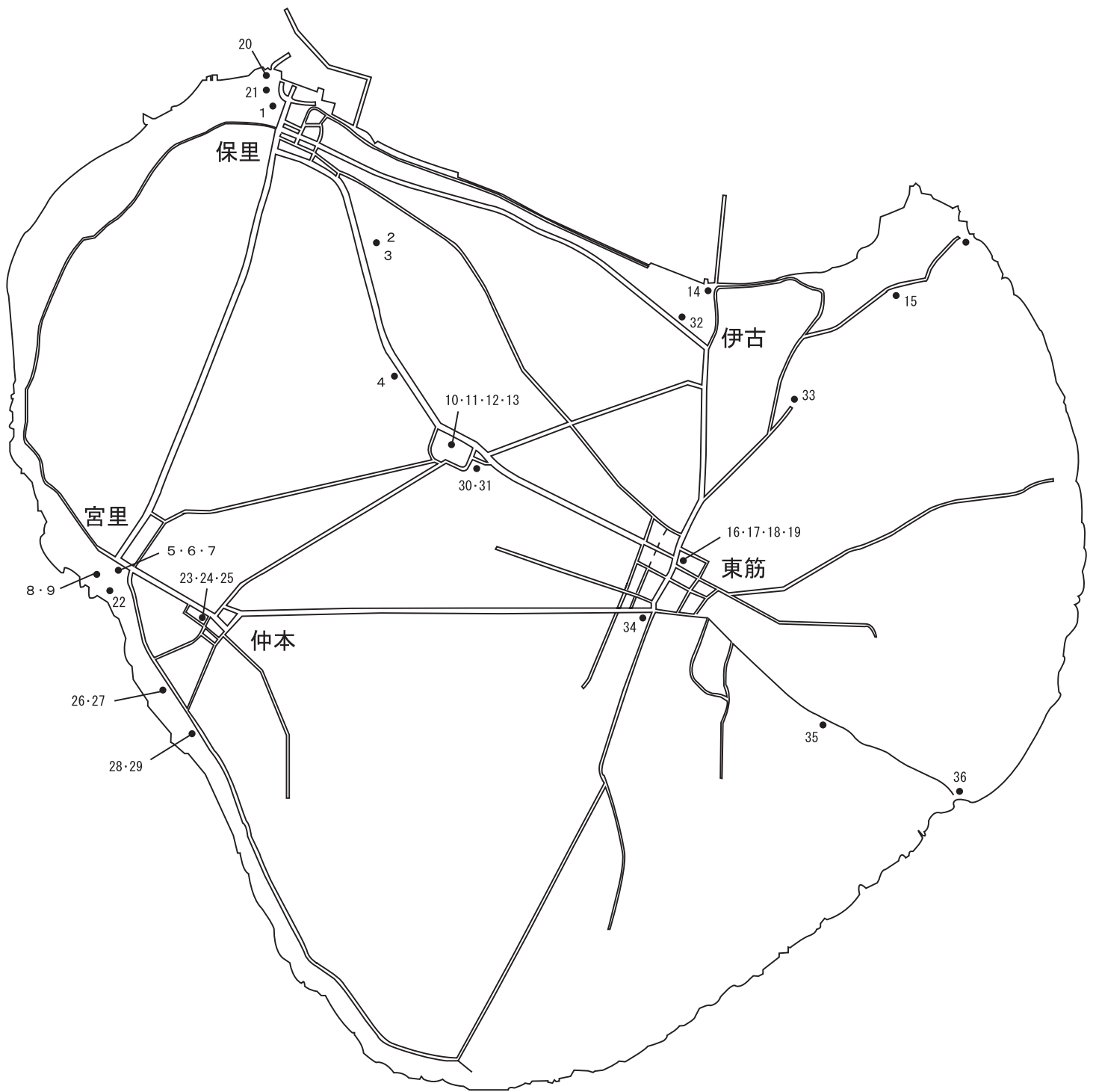
(2) 石碑・記念碑等（御嶽・灯籠を除く）の種類について

今回調査した黒島、新城島、鳩間島の石碑・記念碑等全68件中、御嶽の鳥居は18件で最も多く、と灯籠2件を合わせると全体の29.4%となり、次に記念碑の16件で全体の23.5%、この記念碑に付随して、説明板（10件 -14.7%）、標柱（11件 -16.1%）を入れると、記念碑関連で54.3%と半数を占める。

また、竹富島では、顕彰碑は全体の約12%を占めていたのに対し、この3島では、新城島の2件の3%であったのが特徴と言えよう。

引用・参考文献（順不同）

沖縄県立博物館・美術館，2012，『竹富島総合調査報告書』。



黒島記念碑等集成

番号：1

名称：黒島の紹介説明板



分類：説明板

建立年月日：1973年7月18日

建立場所：黒島港より南へ50m

材質：コンクリート表面タイル貼り 銘板は銅

法量：(全体) 高さ188cm 幅145cm

(銘板上) 縦61cm 横88cm

(銘板下) 縦24cm 横33cm

方角：東南東

設置者：

銘文：

(銘板大)

日本最南端の町 黒島 沖縄県八重山郡竹富町

位置 東経124°北緯24°14′ 石垣島西南方約19km

面積 13.7km² 八重山群島5番目 周囲12.7km

人口 590名 世帯数121 昭和初期は1000人だった

地形 低平な小島 海拔13m 隆起サンゴ石灰岩

気候 湿潤亜熱帯海洋性 平均気温23.6℃ 降水量2195.7mm

産業 農業：甘蔗作が中心であったが今は肉牛の飼育がさかんで黒島牛は八重山の名産である。

文化 島名の由来：一説に薩南諸島からの移住者が自己にゆかりの地名をつけたともいわれるが、サクシマ(珊瑚礁の島の意)からフィシマ=黒島に転訛したものであろう。民謡・伝承：黒島は民俗芸能の宝庫といわれ各部落に古くからの民謡・伝承が多い。なかでも「山崎のアブゼーマ」「黒島口説」「タラマモーサの話」などは有名である。

舞踊：唐踊、獅子舞、仲本部落の「かでく舞」保里部落の「太舞」が知られている。

科学 豊富な海洋資源開発のため海中公園研究センターの建設が予定されている。リーフはあたかも帽子のツバのように島の周囲に伸びている遠浅の環●で、干潮時は●渉が可能であるが多くの危険があるので案内なしでわたってはならない。とくに外海は突然深くなるので注意を要する。

「まっさおな空、サンゴの海、そして頭上を超音速でとびぬける戦闘機 --- 沖縄の人はしかしなぜあれ程に人の情にあついであろうか、私は今守礼の邦にいます ---」1972 一学生

(銘板小)

建立 竹富町

このリーフは長野市大学広瀬金沢公男氏の厚志によるものである

昭和48年7月15日 竹富町長 瀬戸 弘書

制作 長野県須坂市 株式会社アキタ



黒島記念碑等集成

番 号：2
名 称：イサンチャヤー標柱



分 類：標柱
建立年月日：昭和48年2月28日
建立場所：沖縄県道213号黒島港線終点より約500m地点北側
材 質：コンクリート
法 量：高さ163cm 幅19cm 奥行き19cm
方 角：南南西
設 置 者：竹富町教育委員会
銘 文：
・記念物 イサンチャヤー（古墓）
・指定 昭和47年8月30日
・建設 昭和48年2月28日
・竹富町教育委員会

番 号：3
名 称：イサンチャヤー説明板



分 類：説明板
建立年月日：
建立場所：沖縄県道213号黒島港線終点より約500m地点北側
材 質：コンクリート
法 量：高さ120cm 幅41cm 奥行き9cm
方 角：南南西
設 置 者：竹富町教育委員会
銘 文：
・イサンチャヤー（古墓）
・黒島初代の役人高嶺首里
・大屋子夫妻の墓 この島にはじめて
・牛を入れた恩人である

番 号：4
名 称：水道記念碑

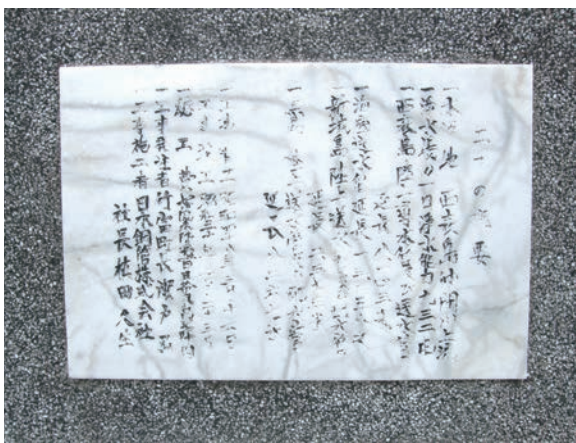


分 類：記念碑
建立年月日：昭和50年2月23日
建立場所：黒島小中学校西100m
材 質：コンクリート
法 量：（全体）高さ330cm 幅337cm 奥行き114cm
（表上銘板）縦50cm 横111cm
（表下銘板）縦43cm 横95cm
（裏銘板）縦43cm 横65cm
方 角：東北東
設 置 者：
銘 文：
（表上銘板）
水道記念碑
初代沖縄開発庁長官

山中貞則書

(表下銘板)

黒島新城島は昔から水に恵まれず島の住民は天水を頼り早魃時は石垣島や西表島から運搬し言語に絶する生活苦と闘い今日に至った。町はこの島の水解決のため当時の琉球政府や米民政府に要請し、度を重ねて地下水源の探査をしたが水源がなく西表島から海底送水の結論に及んだ。それによって県や政府に強力な陳情を続けた。工事の着工までは夢とも言はれたがこの歴史的工事の着工が当時の山中総務長官の卓越せる政治手腕と離島住民を思う御温情により見事完成を見たのである。この水道の実現こそは島の住民にとって正に苦節幾百年の輝しい実りであり、この歓喜他に勝るものわなない本海底送水の実現方について格段の御協力を戴いた県並びに政府に対し深甚な謝意を表す。この施設が永遠に住民に明るい希望を抱かせ郷土の建設と福祉繁栄をもたらし島の礎となることを祈念する。
昭和五十年二月二十三日
竹富町



(裏銘板)

工事の概要
 水源地 西表島仲間川上流
 浄水場の一日浄水能力九三二屯
 西表島陸上導水管及び送水管
 延長八一四三米
 海底送水管延長 一三、二五八米
 新城島陸上送水管及び配水管
 延長八、二六七米
 工事着工 昭和四十八年三月十六日
 工事竣工 昭和五十年二月二十三日
 総工費 七億参阡壹百五拾九萬七阡円
 工事発注者 竹富町長 瀬戸弘
 工事施工者 日本鋼管株式会社
 社長 楨田久生

黒島記念碑等集成

番号：5
名称：学校教育発祥之地



分類：標柱
建立年月日：
建立場所：黒島ビジターセンターの庭
材質：コンクリート
法量：高さ110cm 幅45cm 奥行き10cm
方角：南南西
設置者：
銘文：(表)・学校教育発祥之地
・大川尋常小学校黒島分校
(裏)・明治26年(1893年)6月12日創立

番号：6
名称：番所跡の標柱



分類：標柱
建立年月日：昭和48年2月28日
建立場所：黒島ビジターセンターの庭
材質：コンクリート
法量：高さ151cm 幅18cm 奥行き18cm
方角：南南西
設置者：竹富町教育委員会
銘文：(正面) 史跡 番所跡
(左面) 指定 昭和四七年八月三〇日
(裏面) 建設 昭和四八年二月二八日
(右面) 竹富町教育委員会

番号：7
名称：番所跡の説明板



分類：説明板
建立年月日：
建立場所：黒島ビジターセンターの庭
材質：コンクリート
法量：高さ120cm 幅41cm 奥行き9cm
方角：南南西
設置者：
銘文：・番所跡
・旧藩時代この島を
・統治した役所跡である

黒島記念碑等集成

番 号：8
名 称：フズマリの標柱



分 類：標柱
建立年月日：昭和四十八年二月二十八日
建立場所：フズマリの脇
材 質：コンクリート
法 量：高さ152cm 幅19cm 奥行き19cm
方 角：西北西
設 置 者：竹富町教育委員会
銘 文：

- ・(正面) 記念物 フズマリ (高盛・火番盛)
- ・(左面) 指定 昭和47年8月30日
- ・(裏面) 建設 昭和48年2月28日
- ・(右面) 竹富町教育委員会

番 号：9
名 称：フズマリの説明板



分 類：説明板
建立年月日：
建立場所：フズマリの脇
材 質：コンクリート
法 量：高さ114cm 幅41cm 奥行き9cm
方 角：西北西
設 置 者：
銘 文：

- ・フズマリ (タカムイ)
- ・旧藩時代海上の監視や船の通報
- ・のため烽火を掲げた所黒島口説の
- ・「メーヌタカムイ」はここである。

番 号：10
名 称：黒島小学校創立百周年記念碑



分 類：記念碑
建立年月日：1993年6月
建立場所：黒島小学校内体育館横
材 質：(台座) 石灰岩 (銘板) 御影石
法 量：(台座) 高さ200cm 幅230cm
(銘板) 高さ80cm 幅60cm
方 角：北東
設 置 者：
銘 文：はばたけ
黒潮の子
肝びしち
色びしち
黒島小学校創立
百周年

黒島記念碑等集成

番 号：11

名 称：黒島小中学校校歌



分 類：歌碑

建立年月日：平成元年10月

建立場所：黒島小学校内校舎横

材 質：(台座) 石灰岩 (銘板) 御影石

法 量：(台座) 高さ200cm 幅220cm 奥行40cm
(銘板) 縦50cm 横100cm

方 角：南南西

設 置 者：

銘 文：

(表)

- ・黒島小中学校校歌
- ・作詞 伊波南哲
- ・作曲 外間永律
- ・一. 黒潮おどり 空青く
人はうるわし 南の
緑の丘を 仲原に
真理の鐘は いんいんと
島越え遠く 海渡る
あゝわが母校 黒島校
- 二. 心に太陽 口にうた
もゆる望みに 胸はなり
見よや五体に わく力
嵐吹くとも 肩くみて
力のかぎり こぎゆかん
あゝあが母校 黒島校
- 三. きびの葉ゆれて かいの夢
月もさやかに 風なごみ
海から山へ 幸まねく
友よ健児よ 大らかに
築きあげなん 平和郷
あゝわが母校 黒島校

(裏)

- ・贈
- ・昭和16・7年生
- ・パナスミー会
- ・平成元年10月
- ・揮毫
- ・西真雄 氏

黒島記念碑等集成

番号：12
名称：法務大臣賞の碑



分類：記念碑
建立年月日：
建立場所：黒島小学校内体育館横
材質：(台座) 御影石 (銘板) 御影石
法量：(台座) 高さ107cm 幅115cm 奥行き40cm
方角：北
設置者：
銘文：
・第52回
・社会を明るくする運動作文コンテスト
・法務大臣賞
・宮良もも子
・平成14年12月26日

番号：13
名称：黒島中学校50周年記念碑



分類：記念碑
建立年月日：
建立場所：黒島小中学校裏門脇
材質：
法量：(台座) 高さ127cm 幅310cm 奥行き150cm
(銘石) 高さ156cm 幅240cm 奥行き38cm
(銘板表) 縦70cm 横200cm
(裏銘板) 縦70cm 横50cm
方角：南西
設置者：
銘文：
(表)
①
・心
・黒島中学校50周年記念事業
②
・黒島中学校の歴史
・本校は明治二十六年六月十二日
・宮里部落でかやぶき十二坪の
・大川尋常小学校黒島分校として
・産声を上げ、その後大川尋常小学校
・黒島分教場、黒島尋常小学校と
・つぎつぎ改名する。
・大正十一年七月十日に宮里部落
・から島のほぼ中央に位置する
・現在地(仲原)へ移転し、校名も黒島
・尋常高等小学校、黒島国民学校
・黒島初等学校とさらに変遷を
・繰り返す中、学制改革により
・昭和二十四年四月一日に黒島初等
・学校が黒島小学校と黒島中学校

- ・に改名された。
- ・当初の中学校は、一年生三十二名
- ・二年生三十一名、三年生六名
- ・計六十九名の向学に志す生徒で
- ・開校し、現在に至る。

(裏)

- ・いつも喜んでいなさい
- ・絶えず祈りなさい
- ・すべての事について感謝しなさい
- ・寄贈者
- ・中元 展 (童名マイチ)
- ・一九〇九年 (明治四十二年) 二月十一日生
- ・竹富町黒島字仲本 出身
- ・父 本原 保久利
- ・母 ウナヒト

番 号：14

名 称：伊古棧橋登録有形文化財の碑



分 類：記念碑

建立年月日：

建立場所：伊古棧橋たもと

材 質：(台座) コンクリート (碑) 石灰岩
(銘板) 銅

法 量：(台座) 高さ30cm 幅100cm 奥行き100cm
(碑) 高さ80cm 幅65cm
(銘板) 縦21cm 横30cm

方 角：南

設 置 者：文化庁

銘 文：

登録有形文化財

第47-0010号

この建造物は重要な国民的財産です

文化庁

番 号：15

名 称：獣魂の碑



分 類：記念碑

建立年月日：

建立場所：北神山御嶽から阿名泊御嶽向けの細道沿いにある牧場
施設内

材 質：(碑) 石灰岩 (銘板) 御影石

法 量：(全体) 高さ250cm 幅110cm 奥行きcm

方 角：北

設 置 者：

銘 文：

(表) 獣魂の碑

黒島記念碑等集成

番 号：16

名 称：日本の道100選の碑



分 類：記念碑

建立年月日：昭和62年10月

建立場所：黒島伝統芸能館の北側

材 質：(碑) 石灰岩

(銘板) 御影石

法 量：(全体) 高さ250cm 幅180cm

(銘板表) 縦25cm 横25cm

(銘板裏) 縦55cm 横85cm

方 角：西北西

設 置 者：・建設省「道の日」実行委員会

銘 文：

(表) 道

日本の道100選

県道黒島港線

昭和61年8月10日

建設省「道の日」●●●●会

(裏)

この顕彰碑は、建設省が道路に対する国民の関心を高める目的で、昭和六十一年度から八月十日を「道の日」にせいでいたのにちなんで、「日本の道百選」に日本全国から推薦された百四十一の道路の中から県内で初めて県道黒島港線が選定されたことを記念し設置するものである。

記

県道黒島港線は、東筋集落を起点とし、黒島港を終点とする延長二千四百三十八メートルで、昭和五十六年度から昭和五十八年度にかけて総工費およそ九千万円を投じ、昔ながらの石垣や赤瓦屋根など島の代表的景観を配慮し、琉球石灰岩による石垣の復元、クリーンベルトを兼ねた地下浸透式の排水溝など構造物に工夫を凝らした地域独特の文化や景観に調和した道づくりが高く評価された。

なお、顕彰プレートは、東京オリンピックシンボルマークをはじめ、日本万国博覧会ポスター、沖縄海洋博覧会ペットマークなどを製作した亀倉雄策氏によってデザインされたものである。

昭和六十二年十月

沖縄県八重山土木事務所

黒島記念碑等集成

番号：17

名称：八重山舞踊勤王流ゆかりの地



分類：記念碑

建立年月日：1996年11月10日

建立場所：黒島伝統芸能館前

材質：御影石

法量：(全体) 高さ240cm 幅280cm 奥行き230cm

方角：西

設置者：八重山舞踊勤王流記念碑建立期成会

銘文：

(表上) 八重山舞踊

勤王流ゆかりの地

(表下)

八重山舞踊勤王流は、比屋根安弼（一八三五～一九〇一年）によって創設され、諸見里秀思（一八七六～一九四五年）の代に盤石の基礎が築かれ、渡慶次長智（一八八七～一九六二年）らに引き継がれて八重山芸能の興隆に多くの彩りを添えてきた。

比屋根安弼は、首里で生を享け、鳩間島・西表島古見村を経て黒島で終生を過ごした。

この地は、諸見里秀思の居住跡であり、仲本村に居を構えていた比屋根安弼や近隣に住んでいた渡慶次長智及び島の人々と共に数多くの名作を創案・作成した由緒ある場所である。

ここに、八重山舞踊勤王流を称揚し、その創設・完成に関わった先師を顕彰するための祈念碑を建立する。

一九九六年十一月一日

八重山舞踊勤王流記念碑建立期成会

番号：18

名称：黒島伝統芸能館



分類：記念碑

建立年月日：平成3年10月25日

建立場所：黒島伝統芸能館前

材質：(台座) コンクリート

(碑) 石灰岩

(銘板) 御影石

法量：(全体) 高さ270cm 幅280cm

(銘板) 縦30cm 横80cm

方角：北北西

設置者：

銘文：

(表) 黒島伝統芸能館

(裏) 寄贈 平成三年十月二十五日

名古屋鉄道株式会社

取締役会長 竹田弘太郎

黒島記念碑等集成

番 号：19

名 称：勤王流舞踊の二十二手の名稱



分 類：記念碑

建立年月日：

建立場所：黒島伝統芸能館前

材 質：御影石

法 量：(全体) 高さ128cm 幅90cm 奥行き10.5cm

方 角：西

設 置 者：勤王流八重山舞踊保存会

銘 文：

勤王流始祖・比屋根安弼・諸見里秀思・渡慶次長智

勤王流八重山舞踊保存会 石垣寛史

勤王流舞踊の二十二手の名稱

起凱斜歡示視

恩顧奉納風摩招摩

無窮登峰遠眺瞬眸

思出尊顏揮前進貢

警巖尊顏揮前進貢

飛龍降龍

番 号：20

名 称：ハブのお宮の鳥居



分 類：鳥居

建立年月日：

建立場所：黒島港の北西30m

材 質：コンクリート

法 量：高さ210cm 幅181cm 奥行き17cm

方 角：南南西

設 置 者：

銘 文：

番 号：21

名 称：保里嶽の鳥居



分 類：鳥居

建立年月日：

建立場所：黒島港の北西10m

材 質：コンクリート

法 量：高さ340cm 幅340cm 奥行き45cm

方 角：北東

設 置 者：

銘 文：

黒島記念碑等集成

番 号：22
名 称：船浦嶽の鳥居



分 類：鳥居
建立年月日：
建立場所：フズマリの南東約30m
材 質：コンクリート
法 量：高さ270cm 幅280cm
方 角：南南東
設 置 者：
銘 文：

番 号：23
名 称：仲本神社寄附者芳名揭示板



分 類：揭示板
建立年月日：1957年11月丁酉
建立場所：仲本集落内
材 質：コンクリート
法 量：高さ185cm 幅272cm
方 角：西北西
設 置 者：
銘 文：一九五七年十一月丁酉建設
仲本神社
寄附者芳名
金額 住所 氏名
(以下略)

番 号：24
名 称：うぶはあのお宮鳥居



分 類：鳥居
建立年月日：1957年11月
建立場所：仲本集落内
材 質：コンクリート
法 量：高さ270cm 幅310cm
方 角：南南西
設 置 者：
銘 文：

黒島記念碑等集成

番号：25
名称：うぶはあ



分類：
建立年月日：
建立場所：うぶはあのお宮内
材質：コンクリート
法量：高さ43cm 幅14cm 奥行き8cm
方角：南南西
設置者：
銘文：うぶはあ

番号：26
名称：迎里御嶽の鳥居



分類：鳥居
建立年月日：平成18年1月
建立場所：迎里御嶽
材質：コンクリート
法量：高さ255cm 幅235cm 奥行き20cm
方角：北
設置者：
銘文：

番号：27
名称：迎里御嶽の灯籠



(左)



(右)

分類：灯籠
建立年月日：
建立場所：迎里御嶽の鳥居脇
材質：コンクリート、石灰岩
法量：(右) 高さ107cm 幅47cm 奥行き40cm
 (左) 高さ107cm 幅40cm 奥行き30cm
方角：北
設置者：
銘文：

黒島記念碑等集成

番 号：28

名 称：南風保多御嶽の鳥居



分 類：鳥居

建立年月日：

建立場所：南風保多御嶽

材 質：コンクリート

法 量：高さ310cm 幅340cm 奥行き35cm

方 角：北東

設 置 者：

銘 文：

番 号：29

名 称：南風保多御嶽内の灯籠



分 類：灯籠

建立年月日：(右) 昭和17年旧10月26日

(左) 昭和17年旧9月17日

建立場所：南風保多御嶽内

材 質：コンクリート

法 量：(右) 高さ103cm 幅26cm

(左) 高さ110cm 幅26cm

方 角：北

設 置 者：

銘 文：(右) 奉納 山田繁

(左) 奉納

番 号：30

名 称：乾震堂



分 類：記念碑

建立年月日：1970年7月23日

建立場所：黒島小中学校東約10m

材 質：コンクリート

法 量：高さ140cm 幅63cm 奥行き19cm

方 角：北

設 置 者：

銘 文：乾震堂

黒島記念碑等集成

番 号：31
名 称：乾震堂横の鳥居



分 類：鳥居
建立年月日：昭和30年1月21日
建立場所：黒島小中学校東約10m
材 質：コンクリート
法 量：高さ300cm 幅300cm 奥行き30cm
方 角：北
設 置 者：
銘 文：

番 号：32
名 称：仲盛御嶽の鳥居



分 類：鳥居
建立年月日：
建立場所：伊古部落三叉路より保里向け50m
材 質：コンクリート
法 量：高さ320cm 幅300cm 奥行き30cm
方 角：南南西
設 置 者：
銘 文：

番 号：33
名 称：北神山御嶽の鳥居



分 類：鳥居
建立年月日：昭和25年旧11月13日
建立場所：東筋集落北東約750m
材 質：コンクリート
法 量：高さ270cm 幅260cm 奥行き35cm
方 角：南西
設 置 者：
銘 文：
（左表）奉
（右表）納
（右裏）寄贈 西神山嶽
 信仰者一同

黒島記念碑等集成

番 号：34
名 称：比江地御嶽の鳥居



分 類：鳥居
建立年月日：
建立場所：
材 質：コンクリート
法 量：高さ290cm 幅280cm 奥行き28cm
方 角：東南東
設 置 者：
銘 文：

番 号：35
名 称：南神山御嶽の鳥居

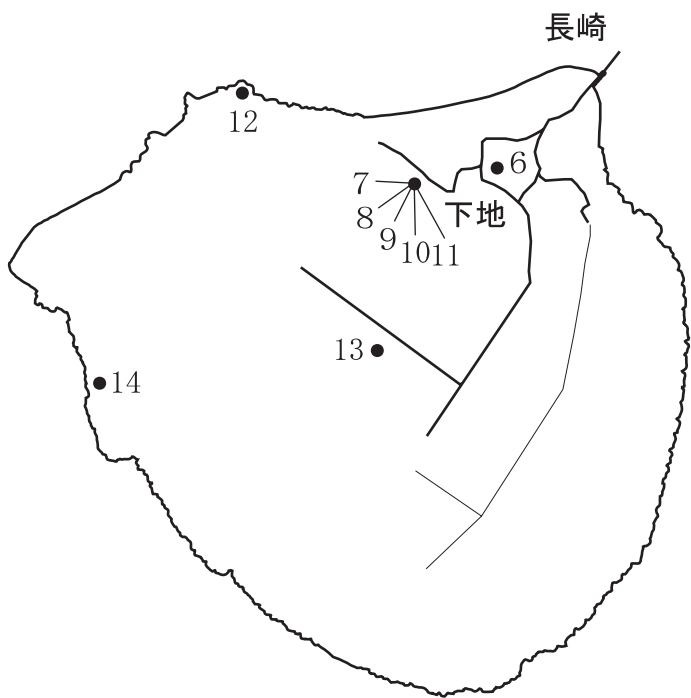
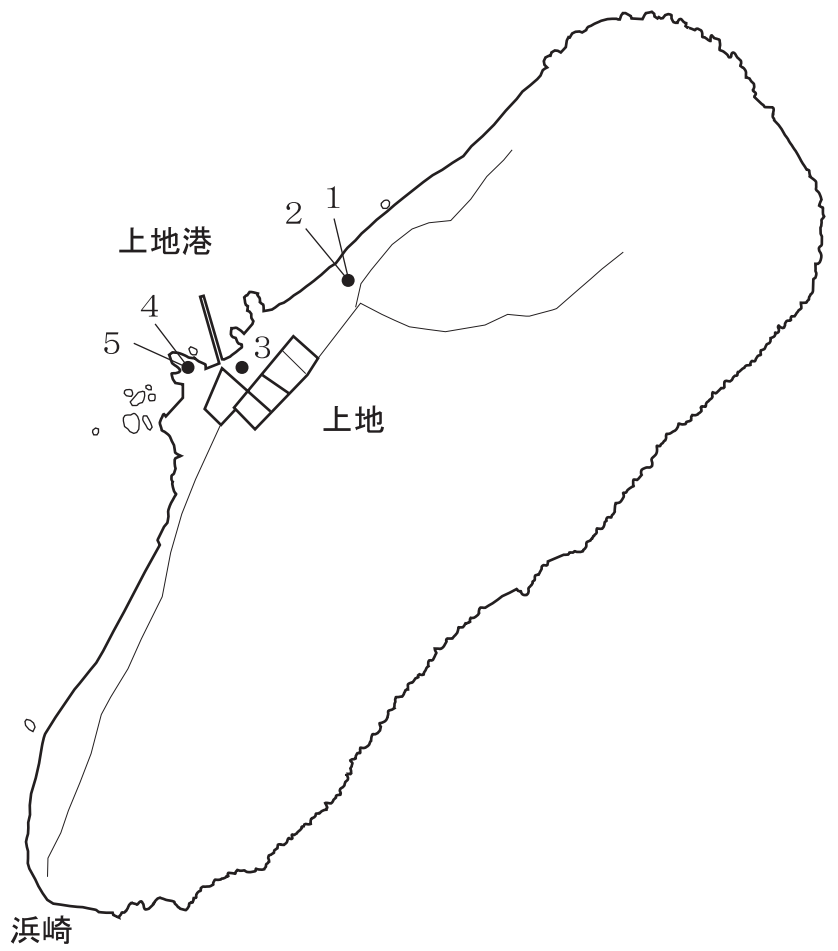


分 類：鳥居
建立年月日：昭和29年旧9月9日
建立場所：
材 質：コンクリート
法 量：高さ320cm 幅310cm 奥行き28cm
方 角：北北東
設 置 者：
銘 文：
（左）表：奉
裏：昭和二十九年旧九月九日
（右）表：納
裏：玉代勢
クヤマ米寿記念
親族一同

番 号：36
名 称：喜屋武御嶽の鳥居



分 類：鳥居
建立年月日：
建立場所：
材 質：コンクリート
法 量：高さ360cm 幅310cm 奥行き40cm
方 角：北
設 置 者：
銘 文：
（左）表：奉
裏：昭和五十二年巳
年十月十五日建立
（右）表：納
裏：大工 仲底忠男氏



新城島内石碑等集成

番 号：1
名 称：タカニク（火番盛）の標柱



分 類：標柱
建立年月日：昭和四八年二月二八日
建立場所：タカニクの脇
材 質：コンクリート
法 量：高さ157cm 幅18cm 奥行き18cm
方 角：西
設 置 者：竹富町教育委員会
銘 文：(正面) 記念物タカニク（火番盛）
(右面) 竹富町教育委員会
(背面) 昭和四八年二月二八日
(左面) 指定 昭和四七年八月三〇日

番 号：2
名 称：タカニク（火番盛）の説明板



分 類：説明板
建立年月日：
建立場所：タカニクの脇
材 質：コンクリート
法 量：高さ107cm 幅41cm 奥行き9cm
方 角：西
設 置 者：竹富町教育委員会
銘 文：旧藩時代海上の監視や船の
通報のため烽火を揚げた所。

番 号：3
名 称：小学校跡地の鉄棒



分 類：
建立年月日：1964年7月18日
建立場所：上地島小学校跡地
材 質：コンクリート
法 量：幅23cm 奥行き23cm 高さ221cm、160cm、
128cm 間隔170cm
方 角：南南西
設 置 者：
銘 文：(正面) 寄贈 加藤 孝
(右面) 一九六四年七月十八日竣工 大工
与儀清邦
石垣三郎

新城島内石碑等集成

番 号：4
名 称：クイヌパナの標柱



分 類：標柱
建立年月日：昭和48年2月28日
建立場所：クイヌパナへの道脇
材 質：コンクリート
法 量：高さ143cm 幅18.5cm 奥行き18.5cm
方 角：北東
設 置 者：竹富町教育委員会
銘 文：（正面）クイヌパナ
（右面）竹富町教育委員会
（背面）指定 昭和四七年 八月三〇日
（左面）建設 昭和四八年二月二八日

番 号：5
名 称：クイヌパナの説明板



分 類：説明板
建立年月日：
建立場所：クイヌパナへの道脇
材 質：コンクリート
法 量：高さ103cm 幅41cm 奥行き9cm
方 角：北東
設 置 者：竹富町教育委員会
銘 文：自然の丘陵に石を積み上げて造った昔の見晴台この島の民謡クイヌパナ節に歌われている

番 号：6
名 称：大原小中学校下地分校跡記念碑



分 類：記念碑
建立年月日：昭和五十九年七月吉日
建立場所：下地島小学校跡地
材 質：御影石
法 量：高さ66.5cm 幅46cm 奥行き9.3cm
（銘板）縦50.5cm 横84.5cm
（台座）1段目 高さ67cm 幅140cm 奥行き128cm
2段目 高さ19cm 幅91cm 奥行き51cm
方 角：西南西
設 置 者：下地島学校跡地記念碑建立期成会

新城島内石碑等集成



- 銘 文：(表) 大原小中学校下地分校跡
 (裏)・廃校三十周年にあたり此に建立する
 ・昭和五十九年七月吉日
 ・下地島学校跡地記念碑建立
 ・期成会

(文字盤)

- ・明治二十九年六月十三日
- ・大川尋常小学校の分教場として創立
- ・(新城番所附属真納布機織小屋で開校)
- ・〃〃三十四年三月
- ・大川尋常小学校新城分教場と改称
- ・〃〃三十九年五月一日
- ・黒島尋常小学校の分教場となる
- ・〃〃四十年四月一日
- ・新城尋常小学校と改称し、独立校となる
- ・大正九年五月十一日
- ・新城下地に仮教室を設置
- ・(通学不能の場合学習セシムルタメ)
- ・昭和十六年四月一日
- ・新城国民学校と改称(高等科併設)
- ・〃〃十九年四月一日
- ・新城国民学校下地分教場を対岸南風
- ・見ザラ崎二〇一番地に移築開校式挙行
- ・〃〃二十一年四月一日
- ・新城国民学校を大原国民学校に改称
- ・〃〃二十一年六月四日
- ・新城下地分教場設置認可
- ・〃〃二十一年七月一日
- ・国民学校を初等学校と改称
- ・〃〃二十四年四月一日
- ・大原小中学校下地分校と改称
- ・〃〃二十八年六月六日
- ・大原中学校下地分校廃止
- ・〃〃二十九年四月五日
- ・大原小学校下地分校廃校

番 号：7
 名 称：下地神やどる拝所



- 分 類：
 建立年月日：昭和五十九年六月吉日建立
 建立場所：下地島小学校跡西
 材 質：御影石
 法 量：高さ50cm 幅30cm 奥行き10cm
 方 角：南西
 設 置 者：下地同胞一同
 銘 文：(表) 下地神やどる拝所
 (裏)・昭和五十九年六月吉日建立
 ・建立者 下地同胞一同

新城島内石碑等集成

番号：8
名称：



分類：鳥居
建立年月日：昭和11年6月
建立場所：下地島小学校跡西
材質：コンクリート
法量：高さ280cm 幅240cm
方角：北北東
設置者：
銘文：・奉納 昭和十一年六月建立
・新川盛光

番号：9
名称：故新川亀翁生誕一六五年記念之碑



分類：顕彰碑
建立年月日：昭和五十九年六月吉日
建立場所：下地島小学校跡西
材質：御影石
法量：高さ90cm 幅38cm 奥行き13cm
(台座) 1段目 高さ2cm 幅160cm 奥行き160cm
2段目 高さ15cm 幅120cm 奥行き120cm
3段目 高さ15cm 幅80cm 奥行き80cm

方角：南西
設置者：新川家子孫一同

銘文：
・経歴 御先祖故亀翁は一六五年前当所に出生生来
・温厚篤実な人柄で博く人を愛し村のために尽くされた
・ことは世人手本なりとの伝承を深く感謝しております。
・一八六二年一月六日下地島の東南岸暗礁に米國船坐礁難破せる
・見て单身急行し米人等の救助に当り村人と協力し直ちに当時の
・蔵元当局へ急報し本國へ帰還させられた功績と御遺徳を
・偲びここに祈念碑を建立す
・昭和五十九年六月吉日
・建立者 新川家子孫一同



新城島内石碑等集成

番 号：10
名 称：故新川ツルマ媼之碑



分 類：顕彰碑
建立年月日：昭和61年5月吉日
建立場所：下地島小学校跡西
材 質：御影石
法 量：高さ69.5cm 幅30cm 奥行き10.5cm
 (台座) 1段目 高さ15cm 幅100cm 奥行き100cm
 2段目 高さ15cm 幅70cm 奥行き70cm
方 角：北東
設 置 者：新川家子孫一同
銘 文：
・故ツルマ媼は生来靈力高く慶応三年（丁卯）下地島
・御出生され二十七才の癸巳年に神の託宣啓示あり神宿
・拝所を創建され島の神信仰を啓蒙されたその
・偉大なる業績を御遺徳を偲びここに記念の碑を建てる
・昭和六十一年（丙寅）五月吉日建立
・新川家子孫一同

番 号：11
名 称：神宿拝殿改築記念碑



分 類：記念碑
建立年月日：昭和11年7月19日
建立場所：下地島小学校跡西
材 質：コンクリート
法 量：高さ113cm 幅23cm 奥行き13cm
 (台座) 1段目 高さ15cm 幅70cm 奥行き51cm
 2段目 高さ15cm 幅50cm 奥行き34cm
方 角：北西
設 置 者：
銘 文：(正面) 神宿拝殿改築記念碑
 (右面) 昭和十一年七月十九日新川盛光謹書

番 号：12
名 称：ななぞう御嶽拝所



分 類：
建立年月日：昭和六十年六月十八日
建立場所：下地島北西部
材 質：御影石
法 量：高さ67cm 幅30cm 奥行き10cm
 (台座) 1段目 高さ15cm 幅120cm 奥行き120cm
 2段目 高さ15cm 幅90cm 奥行き90cm
 3段目 高さ15cm 幅60cm 奥行き60cm
方 角：南
設 置 者：下地島出身者一同
銘 文：(表)・ななぞう御嶽拝所
 ・海の神
 (裏)・昭和六十年六月十八日建立
 ・下地島出身者一同

新城島内石碑等集成

番 号：13
名 称：大中城御嶽神座

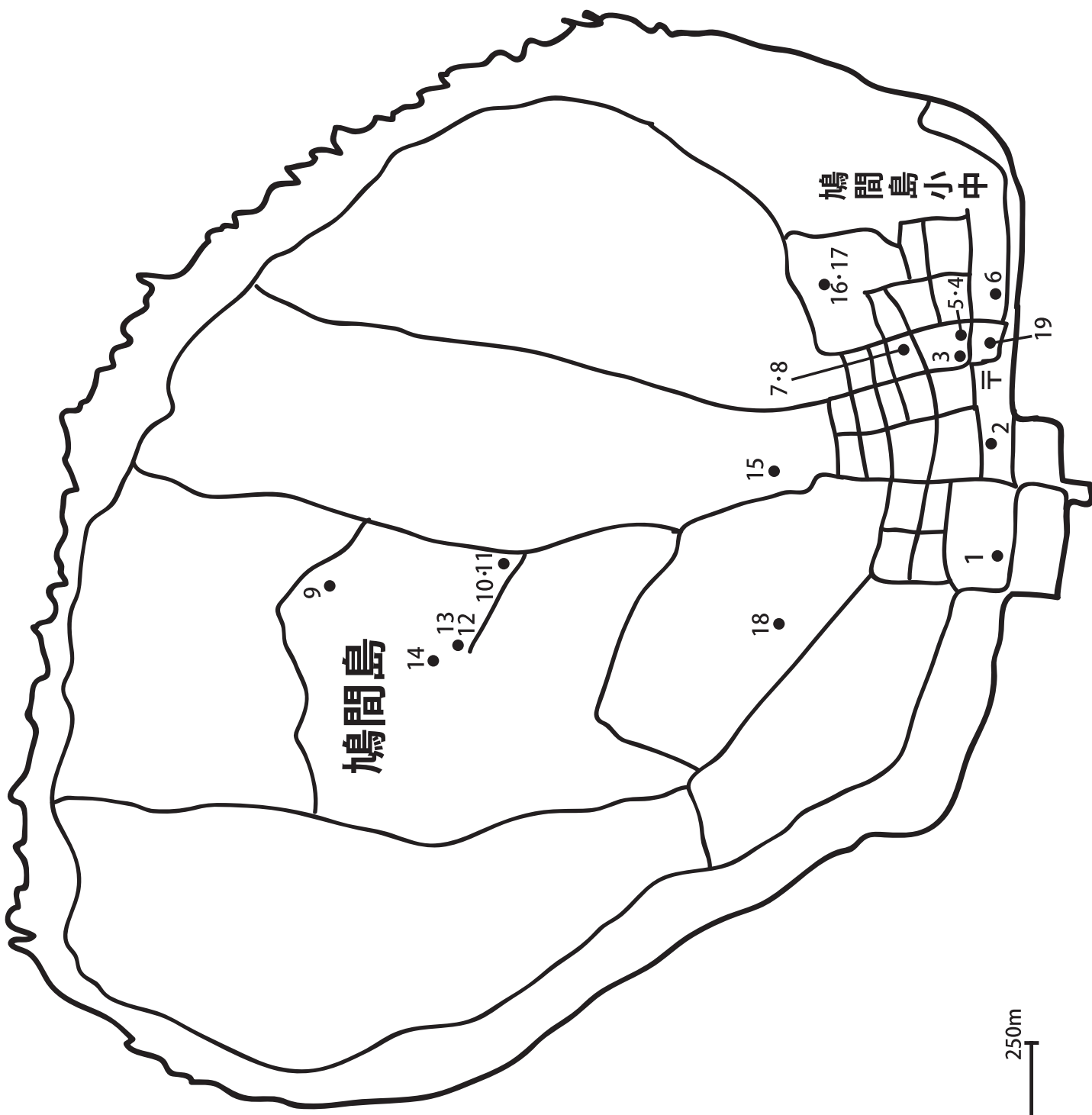


分 類：記念碑
建立年月日：昭和六十二年六月吉日
建立場所：下地島火番盛東方
材 質：コンクリート
法 量：高さ114cm 幅20.5cm 奥行き11cm
方 角：北東
設 置 者：下地島出身者一同
銘 文：
・此処新城四五二ノ森ワ古来鎮守ノ親神ゲ 靈力高く尊崇
・サレ人跡未踏ノ聖域ナリ祭事拝礼ハ南方四五四番地ノ
・拝所ゲ行ナワレタ依ッテココニ祈念碑ヲ建立スル
・昭和六十二年六月吉日建立 下地島出身者一同

番 号：14
名 称：下地西御嶽拝所



分 類：
建立年月日：昭和五十九年六月吉日
建立場所：下地島西部
材 質：御影石
法 量：高さ54cm 幅30cm 奥行き10cm
 (台座) 1段目 高さ15cm 幅122cm 奥行き122cm
 2段目 高さ15cm 幅81cm 奥行き81cm
 3段目 高さ15cm 幅51cm 奥行き51cm
方 角：東南東
設 置 者：下地氏子一同
銘 文：(表) 下地西御嶽拝所
 (裏)・昭和五十九年六月吉日建立
 ・建立者 下地氏子一同



鳩間島内石碑等集成

番号：1

名称：戦死者・マラリア死亡者慰霊之碑



分類：慰霊之碑

建立年月日：平成元年六月

建立場所：いとま浜ターミナル向い

材質：コンクリート 銘板は御影石

法量：(全体) 幅114cm 高さ76cm 奥行き14cm

(表上銘板) 幅114cm 高さ76cm 奥行き14cm

(表下銘板) 幅114cm 高さ76cm 奥行き14cm

(裏銘板) 幅114cm 高さ76cm 奥行き14cm

方角：南

設置者：田代浩

銘文：(正面) 太平洋戦争は鳩間島でも日夜敵機の飛来して無数の爆弾の投下を受けて尊い人命を失い家屋その他も多大なる損害を蒙った。当時西表島防衛司令官下永部隊長の軍命に依り島民は昭和二十年三月対岸の西表島に余儀なく強制的に疎開させられた。島民は疎開先の山野で七ヶ月間現地生活を強いられた。その間敵機の猛烈なる機銃掃射のため死亡する者、悪性マラリアで罹患して死亡する者、現地を引き上げる者や、食料の欠乏と栄養失調等更にマラリアが再発して高熱のため死亡する等後を絶えなかった。その死亡者数は遂に九十余名となり戦死者十一名を加えると一〇〇を数えるに至った。

ここに霊を慰め恒久的平和を願い碑を建立す。

平成元年六月

建立者 田代浩

(背面) 戦死者芳名

兼久 屋真 (陸軍)

通事 太郎 (海軍)

大工 良祐 (")

浦崎 英八 (")

小浜 博 (")

西加治工 三郎 (")

西加治工 弘 (陸軍)

田代 新英 (陸軍)

伊豆味 亀一 (陸軍)

大浜 長度 (軍属)

以上十一名

鳩間島内石碑等集成

番 号：2
名 称：ヒナイ御獄の鳥居

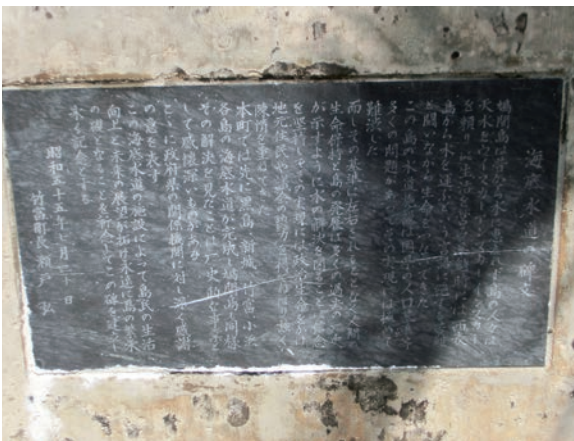


分 類：鳥居
建立年月日：平成9年7月27日
建立場所：鳩間島簡易郵便局西65m
材 質：コンクリート
法 量：高さ265cm 幅250cm 奥行き25cm
方 角：北
銘 文：(正面) 奉納
(背面) 平成九年七月二十七日建立

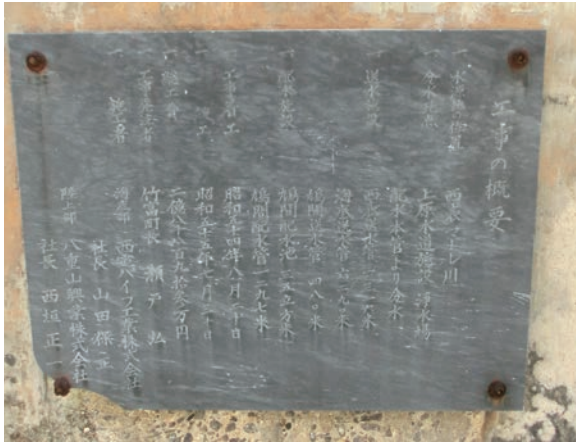
番 号：3
名 称：鳩間島水道記念の碑



分 類：記念碑
建立年月日：昭和55年7月30日
建立場所：鳩間島コミュニティセンター敷地内西側
材 質：コンクリート 銘板は御影石
法 量：(全体) 幅228cm 高さ250cm 奥行き77cm
方 角：南
設 置 者：竹富町長 瀬戸 弘
銘 文：(正面上) 鳩間島水道記念の碑
国務大臣
沖縄開発庁長官 小渕恵三
(正面上) 鳩間島は昔から水に恵まれず島の人々は
天水をウイヌカー アンヌカー インヌカー
を頼りに生活を営み旱魃時には西表
島から水を運ぶという言語に絶する苦難
と戦いながら生命をつないできた。
この島の水道施設は国県の人口基準等
多くの問題があってその実現には極めて
難渋した。
而しその基準に左右されることなく人間の
生命維持と島の発展は多くの過去の歴史
が示すように水の解決を図ることに信念
を堅持してその実現には政治生命をかけ
地元住民や議会の協力を得てねばり強く
陳情を重ねてきた。
本町では先に黒島、新城、竹富、小浜
各島の海底水道が完成し鳩間島も同様
その完成を見たことは歴史的な事業と
して感懐深いものがある。
ここに政府県の関係機関に対し深く感謝
の意を表す。
この海底水道の施設によって島民の生活
向上と未来の展望が拓け永遠に島の繁栄
の礎となることを祈念してこの碑を建立し
永く記念とする
昭和五十五年七月三十日



鳩間島内石碑等集成



竹富町長 瀬戸 弘

(背面) 工事の概要

- 一、水源地の位置 西表マーレ川
- 一、水地点 上原 水道施設上水道
配水本官より分水
- 一、送水施設 西表送水管 一三一六米
海底送水管 六二九〇米
鳩間送水管 四八〇米
- 一、配水施設 鳩間配水池 三五立方米
鳩間配水管 一二九七米
- 一、工事着工 昭和五十四年八月二十日
竣工 昭和五十五年七月三十日
- 一、総工費 二億八千八百九拾参万円
- 一、工事発注者 竹富町長 瀬戸 弘
- 一、施工者 海底部 西電パイプ工業株式会社
社長 山田 保
陸上部 八重山興業株式会社
社長 西垣 正

番号：4
 名称：鳩間小学校発祥の地



分類：記念碑

建立年月日：平成8年6月19日

建立場所：鳩間島コミュニティセンター敷地内東側

材質：砂岩（ニービ）

法量：高さ82cm 幅160cm 奥行き36cm

方角：南

設置者：卒業生同窓生 沖縄在小鳩会

銘文：(正面) 鳩間小学校発祥の地

(左面) 此の麗しき鳩間島に
 父母よ安らかれ友よ待て
 学びの業のなるときに
 錦かざりて帰るまで

(背面) かつて番所があり、鳩間島における庶民教育の発祥の地でもあるこのゆかりの地において明治二九（一八九六）年六月一九日に大川尋常小学校鳩間分校が設置された。由緒ある母校の校史を讀るとともに学問と平和と故郷を愛したかつての少年・少女たちにとって此の地が心のふるさとであることの証として永く記憶にとどめてもらうべく創立百周年を記念して本碑を建立する
 平成八（一九九六）年六月一九日吉日

卒業生同窓生
 沖縄在小鳩会

鳩間島内石碑等集成

番 号：5
名 称：ふるさと歌碑



分 類：歌碑
建立年月日：
建立場所：鳩間小学校発祥の地横
材 質：砂岩（ニービ）
法 量：（全体）幅120cm 高さ107cm 奥行き18cm
方 角：南
設 置 者：
銘 文：兎追いしかの山
小鮒釣りしかの川
夢は今もめぐりて
忘れがたき故郷

こころざしをはたして
いつの日にか帰らん
山はあをき故郷
水は清き故郷

番 号：6
名 称：前泊御獄の鳥居



分 類：鳥居
建立年月日：昭和五十九年七月吉日
建立場所：郵便局東68m
材 質：コンクリート
法 量：高さ280cm 幅260cm 奥行き28cm
方 角：南
銘 文：（表）奉納
（裏）一九五五年
新七月二十四日
旧六月六日 建立

番 号：7
名 称：鳩間郵便局之跡の標柱



分 類：標柱
建立年月日：
建立場所：鳩間小学校発祥の地西70m
材 質：コンクリート 銘板は御影石
法 量：（全体）幅15cm 高さ60cm 奥行き18cm
方 角：南
設 置 者：
銘 文：（表）鳩間郵便局之跡

鳩間島内石碑等集成

番 号：8
名 称：鳩間島沿革



分 類：説明板

建立年月日：昭和63年8月

建立場所：鳩間郵便局之跡の標柱横

材 質：コンクリート銘板は御影石

法 量：(全体) 幅140cm 高さ90cm 奥行11cm

方 角：南

設 置 者：田代浩

銘 文：(正面) 鳩間島は周囲四・二キロで昭和十三年頃には人口八百余名擁し鰹漁船六隻半農半漁の生計を維持していた。昭和十三年郵便取扱所開所され所長に故通事浩氏就任、昭和十五年特定郵便局設置初代局長に田代浩氏が任命された。昭和十八年大東亜戦争は益々悪化し島にも無数の爆弾が投下され軍命に依り島人は西表島北岸、赤離・上原一帯に避難を余儀なくされた。八月終戦と共に島に引き揚げるや食糧はなくマラリヤ罹患者は栄養失調で死亡する者六十余名を数えた。そのような混乱の最中当時与那国を基地として台湾との物資の取引(所謂ヤミ物資時代)が盛んだったが島の海域を頻りに往来する船舶の座礁は後を絶たず尊い人命財物の損失は夥しいものがあつた。事態を憂慮した田代局長は灯台、電信の重要性を痛感し時の八重山郵便局長故宮良賢副・電信課長向井信秀氏に再三陳情要請の結果、昭和二十三年念願の灯台。手動式三号無線機が設置された。(通信士新本実氏)然るに予算乏しく田代局長は島内を初め西表・石垣・与那国の有志等に働きかけ浄財を募り灯台・電信の維持費に充て更に発電機を導入して灯台或は各戸へも電灯化して文化生活の一負を印した。昭和二十年上原地区は鳩間局の市外配達区域に指定された(五年)昭和四十一年無線電話開通された。昭和三十一年頃から島人の転出が著しく昭和五十六年には郵便局は簡易局となり学校も一時期には廃校寸前までなつたが島の人々の燃ゆる結集や各方面の援助の功あつて最近島も次第に活気を取り戻しつつある。

昭和六十二年八月吉日

建立者 田代浩

鳩間島内石碑等集成

番 号：9
名 称：西堂御獄の鳥居



分 類：鳥居
建立年月日：昭和29年9月27日
建立場所：灯台北
材 質：コンクリート
法 量：幅255cm 高さ280cm 奥行き28cm
方 角：北
銘 文：(正面) 奉納
(背面) 昭和二十九年七月二十七日建立

番 号：10
名 称：鳩間島中森の標柱



分 類：標柱
建立年月日：昭和61年5月吉日
建立場所：灯台南東68m
材 質：コンクリート 銘板は御影石
法 量：(全体) 幅16cm 高さ97cm 奥行き17.5cm
(台座) 幅16cm 高さ97cm 奥行き17.5cm
方 角：北東
設 置 者：

番 号：11
名 称：鳩間灯台の由来



分 類：説明板
建立年月日：昭和61年11月
建立場所：灯台南東66m
材 質：コンクリート
法 量：高さ113cm 幅23cm 上部奥行き5cm
方 角：北西
設 置 者：田代浩
銘 文：鳩間島は周囲4.26キロの小島である。大東亜戦争は昭和20年8月を以て終わりを告げたものの島人の生活に必要な日用雑貨とりわけ食料品の不足は著しく必然的にその活路を島外に求めなければならなかった。そのため鳩間島海域に於ける船舶の往来は慌ただしくなり、それに伴い海難事故が頻発難渋を極めた。就中島周辺で座礁する船舶は後を絶たず尊い人命や財物の損失はおびただしいものであった。事態を憂慮した当時の鳩間郵便局長田代浩は

鳩間島内石碑等集成



船舶の航行を安全に導く灯台の重要性を痛感し、昭和23年4月5日島の中央部中岡（海拔三十四米）の頂きに自力で以て高さ三米の櫓を組み立て灯油八分ランプ三基灯を光源とし、木製の仮灯台を設置して暗夜の道標とした。かくて島内第一号の航海安全の祈りの灯が点火された。

第二代その後内外共に灯台への関心は高まり電源による恒久的灯台の建設へと計画を進め八重山水産会、石垣、西表、与那国 漁業者他有志等へ働きかけ浄財を募り、昭和二十三年九月三十日、高さ六米直径約七十七センチの鉄筋コンクリート造を建設、更に八馬力原動機を郵便局の構内に設置送電し灯台守として吉川一雄、加治工四郎氏の力を援用して三〇〇Wの照明を終夜点灯することになった。来鳩間灯台は琉球政府海上保安庁と引き継がれ三代・四代と改築変遷して現在に至っている。

昭和六十年十一月吉日建立

寄贈者 田代浩

番号：12
名称：鳩間中森標柱



分類：標柱

建立年月日：昭和48年2月28日

建立場所：灯台東側34m

材質：コンクリート

法量：幅18cm 高さ150cm 奥行き18cm

方角：東

設置者：竹富町教育委員会

銘文：・記念物 鳩間中森

・指定 昭和四七年八月三〇日

・建設 昭和四八年二月二八日

・竹富町教育委員会

番号：13
名称：鳩間中森説明板



分類：説明板

建立年月日：昭和六十二年六月吉日

建立場所：灯台東隣

材質：コンクリート

法量：(全体) 幅41cm 高さ116cm 奥行き9cm

方角：北

設置者：竹富町教育委員会

銘文：鳩間中森

ここからの眺望はまことにすばらしい

有名な民謡 鳩間節はここからの眺め

をうたったといわれている。

鳩間島内石碑等集成

番号：14
名称：物見台復元の碑



分類：標柱
建立年月日：昭和58年6月30日
建立場所：灯台北東側物見台横
材質：コンクリート
法量：幅60cm 高さ116cm 奥行き7cm
 (台座) 幅60cm 高さ116cm 奥行き7cm
方角：東
設置者：
銘文：物見台復元之碑
 昭和五十八年六月三十日竣工
 (台座) 昭和五十八年十二月二十日建立

番号：15
名称：友利御獄の鳥居



分類：鳥居
建立年月日：昭和29年旧9月17日
建立場所：灯台東140m
材質：コンクリート
法量：幅255cm 高さ280cm 奥行き28cm
方角：南
設置者：
銘文：(正面) 奉納
 (背面) 昭和二十九年旧九月十七日

番号：16
名称：下り井 (アンヌカ) 標柱



分類：標柱
建立年月日：昭和48年2月28日
建立場所：鳩間小学校発祥之地より北122m
材質：コンクリート
法量：幅18cm 高さ152cm 奥行き18cm
方角：南西
設置者：竹富町教育委員会
銘文：・記念物 下り井戸
 ・指定 昭和四七年八月三〇日
 ・建設 昭和四八年二月二八日
 ・竹富町教育委員会

鳩間島内石碑等集成

番号：17
名称：下り井（アンヌカ）説明板



分類：説明板
建立年月日：昭和48年2月28日
建立場所：鳩間小学校発祥之地より北122m
材質：コンクリート
法量：幅40cm 高さ115cm 奥行き10cm
（台座）幅40cm 高さ115cm 奥行き10cm
方角：南西
設置者：
銘文：自然の洞窟の傾斜地を下った
所に泉がある 昔島人にとって唯一の
飲料水だったという

番号：18
名称：新川御獄の鳥居



分類：鳥居
建立年月日：昭和29年旧9月17日
建立場所：灯台西143m
材質：コンクリート
法量：幅255cm 高さ280cm 奥行き28cm
方角：南
銘文：（正面）奉納
（背面）昭和二十九年旧九月十七日

番号：19
名称：宮良長包歌碑（生誕125周年）



分類：歌碑
建立年月日：平成20年12月
建立場所：郵便局南東34m
材質：コンクリート
法量：（全体）幅246cm 高さ180cm 奥行き52cm
（台座）幅246cm 高さ180cm 奥行き52cm
方角：南
銘文：（正面）鳩間節
一 海の中真中に只一つ
鳩の浮巣か鳩間島
常の春辺の中森の
久葉の葉末のそよ風に
ゆかしき楽の調べあり
二 稲田に寄する黄金の波

鳩間島内石碑等集成



岸に群れ寄る銀のうろこ
久遠を誇る くがと海
平和の徴 ゆたかなる
あかず楽しき眺めあり
三 嗚呼島人よ 吾人は
空と水とに 比えつつ
心雄々しく 氣は高く
名に負う鳩の 平和
永久に歌わん其の幸を
(背面) 宮良長包生誕 125周年記念
平成20年12月吉日